

ひかりのこ

5月園便り

聖ミエル幼稚園
2020年5月7日

月主題：気づく

4月の長い休園が明け、やっと保育が再開されます。と言っても、まだまだ油断はできず様々な行事の見直しを迫られています。休園中、先生たちの話し合いで、「様々な変更を迫られるけど、頭を使って、変更した中でも子どもたちが成長し、楽しめる保育内容を考えよう。」と声を掛け合いました。

どんなときにもどうしたら良いか「考える」。何か策があるはずだ、何か違う方法があるはずだ。最近はいつも考えています。

様々な物事がマニュアル化され、考えなくてもなんとなく物事が進んでいく、ちょっと前までの世界。でも、今回は、世界中の全ての人に、「当たり前」ではない状況が突き付けられています。

それでも、私たちは、子どもを未来に送らなくてはならない。子どもたちが自分で考え、自分の足で歩み、幸せをつかむことができるように、子どもたちを育てなくてはなりません。

こんな状況でも、やれることはたくさんあります。考えて、考えて、そして皆さんから良い知恵ももらって、子どもたちを育てましょう。こんな時だからこそ、より良い保育より良い子育てを考えましょう。



園長 渡部 良子

キリスト教保育

「命のバトン」

先週、教会の90歳になるご婦人が天国に召されました。翌日、お葬式の準備をしていたら、違う教会の若い信者さんのご家庭で、女の赤ちゃんが産まれたという知らせが飛び込んできました。悲しみに沈んでいた私は少し元気になりました。亡くなった方は、いろいろな困難を乗り越え、イエス様を心から信じて頑張ってくれました。まさに自分の人生を作り上げ、生きるという仕事を成し遂げられた方です。

生まれた赤ちゃんはこれから人生を作っていきます。ご両親や周りの人、神さまの愛をいっぱい受けて、大きくなっていくはずです。生きることは、自分と周りの人、神さまとの共同作業なのです。

人は、生まれる時も、亡くなる時も、神さまの祝福の中にあります。祝福というのは、「あるがままでいい」、「いつも神さまの愛とともにある」という神さまの宣言です。だから安心しなさいと。同じ祝福を受けて、命がバトンタッチされたような気がして、胸が熱くなりました。

ちなみに赤ちゃんは「ひかり」ちゃんと名付けられました。現在の先が見えない不安と怖れの中で、希望のひかり、そして神さまのひかりの存在を教えてください。小さな命です。たくましく育てて欲しいと願っています。



チャプレン 司祭 下澤 昌